

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

3 限 選 択 科 目 (60分)

科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ
政治・経済	2～21	日 本 史	22～39
世 界 史	40～59	地 理	60～71
数 学	72～77		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

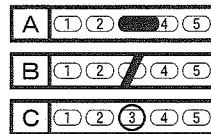
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

東南アジアでは、すでに紀元前4世紀には、ベトナム北部にドンソン文化が栄え、精巧な金属器を製造するようになっていた。この地方で製造された金属器は、⁽¹⁾現在のタイ、マレーシア、インドネシアの各地の遺跡で見つかり、紀元前から東南アジアの諸地域間で盛んに交易が行われていたことがうかがわれる。

インドに仏教を学びに行った中国人僧侶も東南アジアを経由する海路を使うことがあった。法顕は、399年に陸路でインドに行き、412年に海路で中国に戻った。⁽²⁾法顕は、海路で帰国する際、200人以上の商人が乗る大型の船をいくつも乗り継いで、東南アジア経由で中国に帰国したが、このことは5世紀頃にはインドと東南アジアの間で盛んに交易が行われていたことを示すものである。⁽⁴⁾7世紀前半にインドを訪れた玄奘は、⁽⁵⁾往路も復路も陸路を使ったが、7世紀後半にインドに仏教を学びに行った義浄は往路も復路も海路を使った。義浄は、帰路にスマトラ島に立ち寄り、7年間滞在した。当時この地域を支配していた王国の都では1000人以上の僧侶が、⁽⁶⁾インドの僧院と全く同じような方法とレベルで仏教を学んでいると、義浄は書き記している。

11世紀前半には、南インドの⁽⁷⁾チョーラ朝が、マレー半島やスマトラ島に大規模な遠征軍を派遣し、この地域において大きな影響力を持った。しかし、チョーラ朝の影響力は11世紀末には衰え、その後はマレー半島やスマトラ島ではイスラーム教の影響がしだいに強くなった。1293年には、⁽⁸⁾マルコ=ポーロもスマトラ島に立ち寄ったが、そこにはアラブ地域からムスリム商人が大勢立ち寄っており、現地の商人の中にもイスラーム教徒となった者がいると記している。14世紀前半には⁽⁹⁾イブン=バットゥータもスマトラ島を訪れ、スマトラ島のいくつかの港市が、中国やインド、さらには中東との交易で栄えている様子やムスリム商人の活躍について記している。

15世紀になるとマレー半島やスマトラ島では⁽¹⁰⁾マラッカ王国が大きな力を持つよ

うになった。マラッカ国王は、明の皇帝から勅書と印章を受け取ったが、シヤム⁽¹²⁾ (現在のタイ)がマラッカ王国を攻撃し、印章を奪ってしまった。しかしその後マラッカ王国は、明の皇帝にシヤムに対して、マラッカ王国の独立を脅かさないように圧力をかけさせることに成功し、東西交易の拠点として繁栄した。鄭和⁽¹³⁾が、15世紀前半に7回の遠征を行った際も、彼の艦隊は毎回マラッカ王国に立ち寄った。⁽¹⁴⁾

問1 下線部(1)の金属器に関して、ドンソン文化を代表する特徴的な金属器で、当時東南アジア各地で珍重されたものを、下記の選択肢から一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。解答方法は以下同じ。

ア 金杯 イ 銀錢 ウ 銅鼓 エ 青銅鏡 オ 鉄剣

問2 下線部(2)の法顕が帰国後書いた書物を、下記の選択肢から一つ選べ。

ア 五経正義 イ 西廂記 ウ 西遊記
エ 仏国記 オ 性理大全

問3 下線部(3)に関連して、次の問いに答えよ。

① 法顕が到着した頃、北インドを統治していた王朝を、下記の選択肢から一つ選べ。

ア ヴァルダナ朝 イ サータヴァーハナ朝
ウ マウリヤ朝 エ クシャーナ朝
オ グプタ朝

② 法顕が帰国した頃の中国について述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

ア 隋の文帝が、中国を統一して間もない時期であった。
イ 黄巾の乱によって、後漢が滅び、魏、呉、蜀の三国が互いに争っていた。
ウ 東晋の末期にあたり、法顕の帰国後10年も経たないうちに東晋は滅びた。
エ 王安石が引退した直後の時期にあたり、新法党と旧法党が争っていた。
オ 北魏の孝文帝が、均田制を導入して国力を増強していた。

世界史

問4 下線部(4)に関連して、次の問いに答えよ。

- ① 5世紀頃のインドと東南アジアの間の交易について述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。
- ア 交易が盛んになったのに伴い、東南アジア各地でインド文化の影響力が強まり、「インド化」と呼ばれる現象が生じた。
 - イ 5世紀にインドと東南アジアの間を行き来する船の数が増加したのは、インドで羅針盤が発明され、航海の安全性が大きく向上したことによる。
 - ウ 交易の主な担い手はインド人や東南アジアの人々ではなく、航海術に秀でたイスラーム教徒のアラビア人たちだった。
 - エ 海路を使った交易が盛んになり、陸路でインドと東南アジアを結ぶ主要な交易ルート沿いに栄えていたコンバウン朝は衰退した。
 - オ インドとの交易が盛んになったことにより、主にインドに輸出することを目的とした天然ゴムの栽培が東南アジア各地で行われるようになった。
- ② 5世紀の東南アジアについて述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。
- ア メコン川下流域では、中国側資料で扶南と呼ばれる国が栄えていた。
 - イ チャンパーとアンコール朝が戦いを繰り返していた。
 - ウ メコン川上流域では、ドヴァーラヴァティー王国が栄えていた。
 - エ ジャワ島ではクディリ朝がしだいに力を持つようになっていた。
 - オ 大理がイラワディ(エーヤワディー)川上流域を支配していた。

問5 下線部(5)の玄奘について述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

- ア 隋の初代皇帝文帝の命を受けて、仏教教典の研究と収集のためにインドに行き、当時最先端の仏教思想であった大乘仏教を学んだ。
- イ インド滞在中は、ガズナ朝の国王から手厚い保護を受けた。これは玄奘が仏教を学ぶ一方、養蚕の技術をインドに伝えたことによる。
- ウ インド滞在中は、ナーランダー僧院で仏教を学び、帰国後は、インドから持ち帰った膨大な量の教典を中国語に翻訳した。
- エ 玄奘は、インド人僧侶クマーラジーヴァ(中国名：鳩摩羅什)とともに帰国し、インドから持ち帰った教典を二人で協力し合って中国語に翻訳した。
- オ 玄奘が海路を使わなかったのは、当時安南都護府が真臘に攻撃され、陥落しており、ベトナムと中国の間の船での移動が困難であったからである。

問6 下線部(6)の「当時この地域を支配していた王国」を、下記の選択肢から一つ選べ。

- ア シャイレンドラ朝
- イ マタラム朝
- ウ シュリーヴィジャヤ王国
- エ マジャパヒト王国
- オ バンテン王国

問7 下線部(7)のチョーラ朝について述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

- ア チョーラ朝は、ドラヴィダ系のタミル人が建てた王朝で、13世紀にパーンディヤ朝に滅ぼされた。
- イ チョーラ朝は、アーリヤ系のシンハラ人が建てた王朝で、12世紀にチャールキヤ朝に滅ぼされた。
- ウ チョーラ朝は、7世紀の頃は南インドのみを支配していたが、8世紀には北インドにも軍隊を派遣し、ヴァルダナ朝を崩壊させた。
- エ チョーラ朝は、唐の時代には中国に朝貢して良好な関係を築いていたが、明とは良好な関係を築くことができず、鄭和の遠征軍によって滅ぼされた。
- オ チョーラ朝は、16世紀に南インドにも領土を広げてきたムガル帝国によって滅ぼされた。

世界史

問8 下線部(8)のマルコ=ポーロについて述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

- ア マルコ=ポーロは元朝から厚遇されていたが、紅巾の乱によって元朝が衰退し始めたため、30年近く滞在した中国を離れ、ヨーロッパに戻った。
- イ マルコ=ポーロはヴェネツィア出身の商人で、父や叔父とともに中国を訪れ、元のフビライに仕えた後、帰国した。
- ウ マルコ=ポーロは元の第2代皇帝オゴライに仕えたが、オゴライの死後に生じた皇位継承争いによる混乱を避けて、帰国した。
- エ マルコ=ポーロが海路を使って帰国したのは、ティムール朝とオスマン帝国が激しく争うようになり、陸路での帰国が困難になったからである。
- オ 帰国後マルコ=ポーロは教皇に面会しようとしたが、当時教皇は、フィリップ2世によって南フランスに幽閉されており、面会できなかった。

問9 下線部(9)のイブン=バットゥータについて述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

- ア バグダードの商人であったイブン=バットゥータが中国を訪問したことによって、14世紀には中東と中国の間の海路での交易が非常に盛んになった。
- イ エジプトの学者イブン=バットゥータは、元朝の招きで中国を訪問した。帰国後彼が書いた本は、元朝の統治体制についての貴重な資料となっている。
- ウ モロッコ出身の知識人であったイブン=バットゥータは、元朝を訪問したほか、西アフリカのマリ王国も訪問した。
- エ イブン=バットゥータは、ペルシアの医師であったが、中国の医学にも関心を持ち、元朝を訪問した。
- オ イブン=バットゥータは、チュニス生まれの歴史家で、元朝は、彼から中東やヨーロッパに関する知識を得ようと、非常に好待遇で中国に招聘した。

問10 下線部(10)のマラッカ王国について述べた下記の文章から、正しいもの一つ選べ。

- ア 15世紀には東西交易の中心として繁栄したが、16世紀初めにポルトガルに攻められ、衰退した。
- イ 17世紀に最盛期を迎え、ガレオン船による太平洋を横断する交易の東南アジア側の重要拠点の一つとなった。
- ウ 16世紀後半まで繁栄したが、オスマン帝国がレパントの海戦で敗北して崩壊したことにより、中東からのムスリム商人の来訪が減少し、衰退した。
- エ 16世紀にジャワ島でマタラム王国が台頭し、マラッカ王国に対して何度も戦争をしかけた。国力が衰退した明には頼ることができないと判断したマラッカ国王はポルトガルに保護を求め、自らすすんでその保護領となった。
- オ 1529年に締結されたサラゴサ条約で、スペインのフィリピン領有を認めるかわりに、マレー半島を領有することをスペインに認めさせたイギリスは、16世紀後半にマラッカ王国を滅ぼし、マレー半島全体を直轄植民地とした。

問11 下線部(11)の1405年にマラッカの国王に勅書と印章を授与した明の皇帝を、下記の選択肢から一つ選べ。

- ア 洪武帝 イ 建文帝 ウ 永楽帝 エ 崇禎帝 オ 正統帝

世界史

問12 下線部(12)のシャム(現在のタイ)の15世紀の様子について述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

- ア スコータイ朝の最盛期にあたり、ラームカムヘーン王が巨大な仏教寺院群を建設した。
- イ チャオプラヤー川上流域にあったスコータイ朝が、パガン朝の攻撃を受けて南下し、都を現在のバンコク近くに移した。
- ウ 15世紀半ばにスコータイ朝がアンコール朝の攻撃を受けて滅びたが、15世紀後半にはスコータイ朝にかわってアユタヤ朝が成立した。
- エ アユタヤ朝が明との朝貢貿易を盛んに行って栄え、都には上座部仏教の寺院が数多く建立された。
- オ 新田開発によって米の生産を増やして国力を増強したアユタヤ朝が、アンコール朝やコンバウン朝を滅ぼして広大な領土を支配下に置いた。

問13 下線部(13)の鄭和について述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

- ア 鄭和は靖難の役で頭角を現し、大艦隊を率いて、東南アジアやインド洋に遠征を行った。
- イ 鄭和の艦隊は紅海沿岸にも達し、マムルーク朝第5代スルタン、バイバルスとも面会した。
- ウ 鄭和の艦隊はペルシア湾沿岸にも達し、サファヴィー朝のイスマーイール1世とも面会した。
- エ 鄭和の艦隊を歓待したマラッカ王国とは対照的に、鄭和の艦隊と激しく交戦したトゥンギー朝は、都を破壊され、国力が衰退することになった。
- オ 8回目の遠征を計画中に土木の変が起こり、遠征は7回目が最後となった。

問14 下線部(14)の15世紀前半に関連して、次の問いに答えよ。

① 15世紀前半の北インドの状況について述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

ア ティムールの子孫だと自称するバーブルが、北インドに進出し始めていた。

イ アクバルが首都をアグラに移し、中央集権的な統治機構を整備した。

ウ ヒンドゥー国家が分立抗争するラージプート時代だった。

エ デリー・スルタン朝と総称されるイスラーム王朝が、北インドを支配していた。

オ ガズナ朝を滅ぼしたゴール朝が北インドを支配していた。

② 15世紀前半のベトナムについて述べた下記の文章から、正しいものを一つ選べ。

ア 南部は李朝の統治下にあったが、北部では南詔と李朝の間で戦闘が繰り返され、混乱した状態にあった。

イ 北部は明の支配下にあったが、中部と南部は、フエに都を建設した広南王国が統治していた。

ウ 陳朝が、大越という国号を定め、中国にならった科挙制度を廃止するなど、ベトナム独自の文化の育成に力を入れていた。

エ 明の遠征軍を撃退して黎朝が成立した。

オ 阮福映が、西山の乱を鎮圧して阮朝を建てた。

世界史

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

後にユダヤ人と呼ばれるようになるセム系の遊牧民ヘブライ族が、カナーンと呼ばれた現在のパレスチナの地に定住したのは、紀元前1500年頃のことである。農耕をはじめたユダヤ人はこの地に A 王国を建設する。この王国は B 王やソロモン王が統治した時期に全盛期を迎えた。エルサレムにユダヤ教の神殿の造営がおこなわれたのもこの頃のことである。

その後ユダヤ人たちの王国は分裂し、たびたび他民族による支配を受けたが、その過程で唯一神 C に対するユダヤ教の信仰を固めていった。ローマが東方に進出してくると、ユダヤ人たちはその勢力下に入ったが、紀元1～2世紀に2度の反乱を起し、その鎮圧過程でローマ軍はエルサレムを陥落させ、神殿を破壊した。これにより、パレスチナの地に残っていたユダヤ人たちも、各地に移動した。移動先では多くの者は商業や手工業に従事したが、現地の文化に同化はせず、ユダヤ教信仰と共通の文化を維持した。中世ヨーロッパでは、フランク王国の初期においてはユダヤ人は法により保護されていた。ユダヤ人商人のなかには金融業や国際貿易をおこなう者もあり、一部には財務や外交の官僚に登用された者もいた。⁽²⁾

しかし、西ヨーロッパではユダヤ人に対する圧力や迫害がしだいに強まってきた。11世紀に教皇 D の提唱で聖地エルサレムをイスラームから奪回しようとする十字軍が起こされると、同じく異教徒であるユダヤ人は各地で目の敵にされた。⁽³⁾ 12世紀以降、経済活動の活発化とともに商業や金融業に従事するユダヤ人は憎悪や暴力の対象になることが多かった。疫病が流行するとユダヤ人に責任があるという噂が流され、多くのユダヤ人が虐殺された。13世紀末から14世紀にかけてはイギリスや北フランスでユダヤ人の追放令がたびたび出された。レコンキスタの進展とともにユダヤ人への改宗圧力・暴力事件がしだいに増えていた。⁽⁴⁾ スペインでも、1492年にユダヤ人の追放令が発布された。ヨーロッパ各地ではユダヤ人たちは、16世紀以降ゲットーと呼ばれることになる、都市内の一定の地区に分離・隔離されて生活するようになった。そのようなゲットーとしては、17世紀以後ボヘミア王国の首都プラハにつくられたものが最大といわれる。⁽⁵⁾

こうした西ヨーロッパにおける迫害の激化は、多くのユダヤ人を東欧に移動させることになった。とくに、13世紀に **E** の侵略を受け荒廃していたポーランドやリトアニアではユダヤ人の入植は歓迎された。ポーランドのユダヤ人は1264年には身分上キリスト教徒と同じ権利を認められ、1344年には国王 **F** によって大幅な自治権が認められた。こうしてユダヤ人はポーランドでは、大規模な国際貿易から零細な行商にいたるまでのさまざまな規模の商人や、貴族の領地の管理人として活躍した。

18世紀以降、それに先立つ合理論や経験論をふまえ、理性にもとづいて伝統や慣習を批判し、人間社会の進歩と改善をめざす **あ** が広まり、また人間は本来自由かつ平等で、宗教などによって差別されてはならないとする理念が出現した。このことの影響により、ヨーロッパ諸国の多くではユダヤ人もキリスト教徒と同じ権利を認められ、居住や宗教・職業についての制限は撤廃されていった。イギリスでは17世紀からユダヤ人が再定住し始め、17世紀末にはユダヤ教の礼拝が公認された。大陸諸国ではポーランド王国が18世紀に3次にわたる分割の結果消滅したが、ユダヤ人人口とともにその領土を引き継いだ諸国のうち、プロイセン王国では国制改革の一環として1812年にユダヤ人解放令が出され、オーストリアでは1780年代以降、皇帝 **G** の発した宗教寛容令を皮切りに、19世紀半ばまでかかって徐々にユダヤ人に対する法的な平等が認められた。しかしもっとも多くのユダヤ人人口を領内にもつことになったロシア帝国は、ユダヤ人の解放には消極的であり、かえって18世紀の末から19世紀の初頭にはユダヤ人の居住を一定の定住区域に限る制度が作られ、管理が強化された。

このようにユダヤ人を取り巻く環境が変化するなかで、経済的に成功をおさめるユダヤ人があらわれてきた。なかにはドイツのフランクフルトで商業や銀行業を営んでいた **H** 家のように、やがて国際的に活躍し始めるユダヤ人もいた。また高い学識や教養をもち、学問や芸術の分野に進出するユダヤ人も多数出現した。キリスト教に改宗したり、キリスト教徒と結婚する者もあらわれた。外観上も周囲と区別がつきにくくなった彼らは同化ユダヤ人と呼ばれ、上流階級の一員となったり政治権力の中枢にまでのぼりつめていった。イギリスでは19世紀後半にはユダヤ人出身の最初の首相 デイズレーリ が活躍した。

世界史

こうしたユダヤ人の成功と同時に、彼らに対する反感や反発もまた広まってきた。19世紀には各国で **い** の観念が強まった。この観念によれば、国民または民族は政治的な単位であると同時に人種的に純粋な共同体と見なされた。ここから、ユダヤ人はそうした共同体に属さないよそ者であり、国際的につながりをもち活動する彼らは危険分子であるという見方が浮上してきた。以前からの宗教的・経済的な理由に加え、こうした人種的な理由からもユダヤ人を排斥する考えを **う** という。ドイツの歴史家トライチュケが発した「ユダヤ人は我々の不幸である」という言葉は大変有名になった。フランスでは1894年にドレフュ⁽⁸⁾ス事件が起こった。ユダヤ系陸軍将校が冤罪でスパイとされたことに対し、作家ゾラは公然と批判し、世論を二分する騒動になった。また、ロシア帝国で1903年に秘密警察が作成した偽書『シオン長老の議定書』は、ユダヤ人が世界支配の陰謀を企んでいるという誤った解釈を世界各国に広めた。

1881年、ロシア帝国で専制政治をおこなっていた皇帝 **I** が暗殺されると、その責任を押しつけられたユダヤ人への迫害がロシア南部を中心に広がり、それを逃れて1890年代末までに約100万人のユダヤ人人口がドイツ、オーストリアといった隣国経由で流出した。これらは「東方ユダヤ人」と呼ばれ、多くは貧しく、身なりや言語、生活スタイルも、西欧に多い同化ユダヤ人とは異なっていた。こうしたユダヤ人移民のロシアからヨーロッパへの大量流入はその後も続き、各地でユダヤ人への偏見や差別を加速させた。

こうした反感の高まりは、ユダヤ人たち自身にも影響を与え、自らをユダヤ民族として自覚する動きがあらわれた。ジャーナリストで作家のヘルツルを指導者とする一派は、やがて「約束の地」であるパレスチナへの復帰と、ユダヤ民族国家の樹立を要求するようになる。この動きを **え** と呼ぶ。

問1 文中の空欄 ~ に入るもっとも適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つずつ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|---------------|
| a アレクサンドル2世 | b イシュトヴァーン1世 |
| c イスラエル | d インノケンティウス3世 |
| e ウルバヌス2世 | f オスマン |
| g カジミエシュ3世 | h キエフ公国 |
| i クルップ | j ゼウス |
| k ダヴィデ | l ニコライ1世 |
| m フッガー | n ヘロデ |
| o マリア=テレジア | p メシア |
| q モーセ | r モンゴル |
| s ヤハウエ | t ユダ |
| u ヨーゼフ2世 | v ロスチャイルド |

問2 下線部(1)に関連して、ユダヤ人の受けた他民族からの支配について述べた下記の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 紀元前13世紀に一部がエジプトに移住し、その地で古王国による圧政に苦しめられた。
- b 分裂したユダヤ人たちの王国の一方は、紀元前8世紀にアッシリアに滅ぼされた。
- c 分裂したユダヤ人たちの王国の一方は、紀元前5世紀、新バビロニアにより征服され、住民は首都クテシフォンへと連れ去られた。
- d 紀元前1世紀、パレスチナを支配していたセレウコス朝シリアは、ローマの将軍クラッススによって滅ぼされた。

問3 下線部(2)に関連して、アジアの物産を地中海経由で中世ヨーロッパ各地にもたらした国際貿易を何と呼ぶか、その名称を解答欄に記入せよ。

世界史

問4 下線部(3)に関連して、中世のヨーロッパでおこなわれた十字軍について述べた下記の文章のうち誤りをふくむものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 第1回十字軍の結果建国されたエルサレム王国はアイユーブ朝のサラディンによって滅ぼされた。
- b 第3回十字軍の際の参加者を中心に結成されたドイツ騎士団は、その後は北東ヨーロッパに活動の場所を移し、後の国家プロイセンの母体になった。
- c 第5回十字軍の直前には、フランスやドイツから多数の子どもや貧民が聖地をめざして移動する少年十字軍と呼ばれる動きがあった。
- d フランス国王ルイ9世は南フランスの異端派を討伐するアルビジョワ十字軍を終結させた。

問5 下線部(4)に関連して、イベリア半島でレコンキスタが完成した15世紀末の時期の出来事について述べた下記の文章のうち誤りをふくむものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a カスティーリヤのイサベル女王の援助を受けたコロンブスがバハマ諸島に到達した。
- b フランス王シャルル8世がイタリアに侵入し、以後同地の支配権をめぐってフランスと神聖ローマ帝国を中心とする勢力とのあいだに戦争が続いた。
- c ポルトガルとスペインは海外の領土の分割を定めた条約を結んだ。
- d マキアヴェリの著書『君主論』が刊行された。

問6 下線部(5)に関連して、ボヘミアについて述べた下記の文章のうち誤りをふくむものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 初代の神聖ローマ皇帝オットー1世は、侵入してきたアジア系のチェック人を撃破し、ボヘミアは以後、神聖ローマ帝国の支配下に入った。
- b 首都プラハの文化的発展に尽力した神聖ローマ皇帝カール4世であったが、金印勅書の発布は皇帝の権力を弱めた。
- c ボヘミアの宗教改革者であったフスは、そのカトリックを批判する教説のゆえに死刑になった。
- d ハプスブルク家のプロテスタント圧迫政策に対するボヘミアの反抗が三〇年戦争の引き金になった。

問7 空欄

あ

 に入るもっとも適切な語句を解答欄に記入せよ。

問8 下線部(6)に関連して、この改革の時期の出来事について述べた下記の文章のうち誤りをふくむものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ナポレオンとのティルジット条約により、プロイセンは国土の大半を失った。
- b 農民解放がおこなわれ、農奴は人格的な自由や職業選択の自由を与えられた。
- c 改革の総仕上げとしてプロイセン欽定憲法が公布された。
- d 哲学者フィヒテは国力を強化する上で教育の重要性を説いた連続講演をおこなった。

問9 下線部(7)に関連して、首相ディズレーリのとった政策について述べた下記の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 第2回選挙法改正をおこない、比較的豊かな工業労働者の男性にも選挙権を与えた。
- b スエズ運河株式会社の株を買収し、エジプトへの影響力を強めた。
- c 東インド会社のインド貿易独占権を廃止した。
- d アイルランド土地法を制定し、アイルランド人の権利の擁護に努めた。

世界史

問10 空欄 に入るもっとも適切な語句を解答欄に記入せよ。

問11 空欄 に入るもっとも適切な語句を解答欄に記入せよ。

問12 下線部(8)に関連して、ドレフェス事件のあったフランス第三共和政時代の出来事について述べた下記の文章のうち正しいものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 当初は王党派の勢力が強かったが、しだいに共和派が力をつけた。
- b フランス人クーベルタンの提唱で、パリで第1回オリンピック大会が開かれた。
- c セーヌ県知事のオスマンがパリの大改造をおこなった。
- d フランス人レセップスの努力によりスエズ運河が開通した。

問13 空欄 に入るもっとも適切な語句を解答欄に記入せよ。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

〔 A 〕 年、併合により朝鮮が日本の植民地になると、朝鮮民族の朝鮮内外への移動が促進された。⁽¹⁾

朝鮮の内部では、農家の次男三男などが農村から過剰人口として排出されたが、工業が未発達という条件のもと、都市の場末で貧民街を形成したり、逆に山間部に入り、火田という名の焼畑農業を始める人が少なからず存在した。

朝鮮外への移住者も多く、中国には1860年代から移住する人々がみられたが、⁽²⁾植民地時代に入り移住者の規模が増大した。中国との間には鴨綠江・豆満江などの大河があるとはいえ、越境は比較的容易で、移住した中国東北部で農業、とくに稲作を行い、水田地帯を拡げた。

移住者の中には経済的な要因より、政治的な動機で渡る人もあった。

〔 B 〕 年、朝鮮で三・一独立運動が起きると、上海に亡命政権としての性格をもつ大韓民国臨時政府が成立し、⁽³⁾抗日運動が繰り広げられた。移住した朝鮮人の抗日運動は中国の国境地帯でも展開され、時には河を越えて国境近くの朝鮮の村に入り、警察署・行政機関や親日的な朝鮮人を襲撃したりした。

〔 C 〕 年の柳条湖事件の結果、翌年、中国東北部に満州国の樹立が宣言されると、この地域に移住していた朝鮮人はその支配下に置かれ、日本語教育の対象ともされた。満州国の官吏や警察官など、統治機構の末端に登用される場合もあり、⁽⁵⁾中華人民共和国建国後も朝鮮族として中国に留まった人の場合、その経歴が微妙な問題となることもあった。⁽⁶⁾

朝鮮人のロシア・ソ連への移住も1860年代からみられるが、〔 D 〕 年にロシア革命が勃発し、⁽⁷⁾ソヴィエト政権が樹立されると、朝鮮は社会主義政権と国境を接することになった。生活苦から移住して、⁽⁸⁾沿海州で稲作を始める人もあったが、独立運動の根拠地をつくるという明確な政治目的で移住する場合も少なくなかった。実際、シベリア出兵の中で、日本はその拠点を鎮圧する軍事行動を起こしてもいる。しかし、満州国の樹立でこの地域が満州国と広大な境界線で接するようになると、日本のスパイとなることを恐れたソ連の最高指導者の命令により⁽⁹⁾1937年、この地域に住む約18万人の朝鮮人全員がシベリア鉄道に乗せられ、環境

世界史

のまったく異なる中央アジアに強制移住させられた。現在、カザフスタンやウズベキスタンに朝鮮系住民が多く居住しているのは、このことに起因している。

海峡を隔てた日本の内地には、韓国併合前後から多くの労働者と一部の留学生が渡ってきた。労働者は日本のインフラを整備する各種の土木工事や炭坑・鉱山・工場などで働き、また留学生は日本語を通じて接した世界の新思想や新思潮⁽¹⁰⁾を、自己研鑽や独立運動に活かしたりした。日本は新しい文明に触れることができる憧れの地であると同時に、重労働や差別などに苛まれる恨みの場所でもあった。後者の例として、関東大震災時の虐殺⁽¹¹⁾や戦時下の労務動員(強制連行)などが挙げられる。これら第二次世界大戦前に海峡を越えてやってきた人々が、現在の在日韓国・朝鮮人(在日コリアン)の原型になった。

アメリカには19世紀末以降、ハワイのプランテーションの労働者などとして移住する朝鮮人がみられたが、李承晩⁽¹²⁾のようにアメリカを舞台に外交活動を展開した人もいた。

問1 文中の ~ に入るにふさわしい年号を次から選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|----|------|
| 1 | 1905 | 2 | 1910 | 3 | 1917 | 4 | 1919 | 5 | 1923 |
| 6 | 1925 | 7 | 1928 | 8 | 1931 | 9 | 1935 | 10 | 1937 |

問2 下線部(1)に関連して、植民地化以前の朝鮮について述べた下記の文のうち、間違っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 幕末の日本と同様、それまで交流を閉ざされていた欧米の船が交易を求めて朝鮮近海に出没したが、朝鮮側は当初、攘夷政策を堅持しつづけた。
- 江華島事件の結果、朝鮮は日朝修好条規を締結し、開国するに至った。
- 開化派の金玉均らは、開化の推進に障害となっている日本を標的にしたクーデタを起こしたが失敗した。
- 日清戦争後、ロシアに接近したことで日本の反感を買った朝鮮の王妃は、日本側によって暗殺された。

問3 下線部(2)の1860年代の中国について述べた下記の文のうち、間違っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 洪秀全を指導者とする太平天国が、内紛などの混乱をはらみながら続いていた。
- 2 太平天国の平定後、同治の中興と呼ばれる比較的安定した時代が始まった。
- 3 曾国藩や李鴻章などによって、近代化を目指した洋務運動が展開されはじめた。
- 4 皇帝も戊戌の変法で政治の革新に着手し、洋務運動に呼応した。

問4 下線部(3)について、大韓民国臨時政府が上海に置かれた理由は、当時の国際的な大都市であることのほか、ここに日本の官憲の力が及びにくい場所があったからである。開港後、列強が中国に置いた、各種の政治経済的特権を有する居留地を何というか。その名称を漢字で解答欄に記入せよ。

問5 下線部(3)にある大韓民国臨時政府は、日本の中国侵略に応じて上海から内陸部へと順次移動を余儀なくされ、最後は奥地であって、国民政府とともに第二次世界大戦終結時まで活動を続けた。日本の空襲が行われたことでも知られるこの都市を下記の選択肢の中から選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 北京 2 重慶 3 延安 4 南京 5 西安

問6 下線部(4)にある植民地時代の朝鮮の抗日運動の中では、歴史上の民族の英雄が想起され、ときに精神的な支柱とされた。その一人で、16世紀末における外敵撃退への貢献が崇拜の理由となった人物は誰か。下記の選択肢の中から選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 李舜臣 2 李成桂 3 李自成 4 洪景来 5 洪吉童

世界史

問7 下線部(5)にある満州国について述べた下記の文のうち、間違っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 清朝最後の皇帝である宣統帝溥儀が、執政(のちに皇帝)として担ぎ出された。
- 2 満州国は、同様にアジアやアフリカに植民地をもつ列強から、相互承認の形で認められた。
- 3 首都を置いて「新京」と称したが、それは現在の長春である。
- 4 満州国の支配において、それ以前から日本が満州進出の足がかりとしていた南満州鉄道株式会社(満鉄)が大きな役割を果たした。

問8 下線部(6)に関連して、中華人民共和国建国後の中国では、過去における個人の政治的言動が問われ、断罪される事件がしばしば起きた。それは、1966年から10年間にわたって中国全土で展開された一大政治闘争の中でもっとも顕著にみられたが、この闘争を何と呼ぶか。その名称を解答欄に記入せよ。

問9 下線部(7)の革命前のロシアで起きた下記の4つの出来事を、古いものから新しいものへと順に並べたとき、3番目に来るものはどれか。その番号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|----------|
| 1 日露戦争 | 2 クリミア戦争 |
| 3 ストルイピンの改革 | 4 農奴解放令 |

問10 下線部(8)の沿海州について述べた下記の文のうち、間違っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 1860年以前、ここは清朝の領土であった。
- 2 ノモンハン事件は、ここを舞台に戦われた。
- 3 ここの中心都市にウラジヴォストークがある。
- 4 シベリア鉄道も一部、ここを走っている。

問11 下線部(9)のソ連の最高指導者とは誰か。その名前を解答欄に記入せよ。

問12 下線部(10)にある世界の新思想や新思潮のうち、20世紀前半の朝鮮留學生が接した可能性がないものを下記の選択肢の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- | | |
|----------|---------|
| 1 マルクス主義 | 2 無政府主義 |
| 3 多文化主義 | 4 民族自決 |

問13 下線部(11)の関東大震災およびその時の朝鮮人虐殺について述べた下記の文のうち、間違っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 関東大震災による首都の惨状は、普及しつつあったラジオやテレビを通じて日本全国に伝えられた。
- 2 朝鮮人虐殺の背景には、「朝鮮人が井戸に毒を投げた」などという流言があった。
- 3 朝鮮人以外に、社会主義者や労働運動の指導者などへの虐殺事件も起きた。
- 4 震源に近い京浜工業地帯が壊滅的な打撃を被るなど、震災は経済的に多大な影響を及ぼした。

問14 下線部(12)の李承晩について述べた下記の文のうち、間違っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 三・一独立運動後にできた大韓民国臨時政府の初代首班に推挙された。
- 2 日本からの独立後に誕生した大韓民国の初代大統領に就任した。
- 3 1960年、度重なる権力の不正・腐敗に憤った学生・市民のデモで政権の座を追われた。
- 4 彼の後に大統領となった朴正熙や全斗煥らと同じく、もともとは軍人である。